



Chapter 7

決裁機能の利用

決裁データベースの設定・運用について解説した資料です。

UnitBaseのデータベースを稟議・決裁システムとして活用いただくことができます。その際に必要な、役職や決裁ラインなどの事前準備、決裁データベースの設定項目、公開・運用手順などについてご説明しています。

Chapter 7：決裁機能の利用

- ◆ UnitBaseの決裁機能
 - ・ 決裁処理の流れの概要
 - ・ 決裁に関わるユーザーと必要な権限
 - ・ 決裁処理の進み方
- ◆ 決裁機能を設定する
 - ・ 役職の設定
 - ・ 決裁ラインの設定
 - ・ 決裁データベースの作成
 - ・ 決裁ルートの設定
 - ・ 決裁データベースの運用開始
- ◆ 決裁データベースを公開する
 - ・ 決裁データベースの公開
 - ・ 決裁データベース特有のアクセス権設定
- ◆ 決裁を申請する
- ◆ 申請された決裁进行处理する

株式会社ジャストシステム

決裁機能

UnitBaseの決裁機能

□ 決裁処理の流れの概要

UnitBaseを使用して、承認が必要な内容の決裁をします。

UnitBaseでは、レコード単位で決裁内容を記入し、そのレコードを、決裁を依頼されたユーザーが承認・差し戻し・却下などの判断を行います。

標準の設定では、決裁が完了したレコードは、あとで編集することはできません。決裁中は、決裁または差し戻しを依頼されたユーザーだけが、レコードを編集することができます。決裁中や決裁完了後にレコードを編集できるように設定することもできます。

ユーザーが不在となる場合には、あらかじめ代理人を指定しておき、処理を代行してもらうこともできます。

複数のユーザーのうち誰か1人が承認すれば次の決裁者に決裁を進めたいという場合には、決裁者としてグループを指定することができます。また、複数のユーザー全員が承認して初めて次の決裁者に決裁を進めたいという場合は、複数人決裁を設定します。

□ 決裁に関わるユーザーと必要な権限

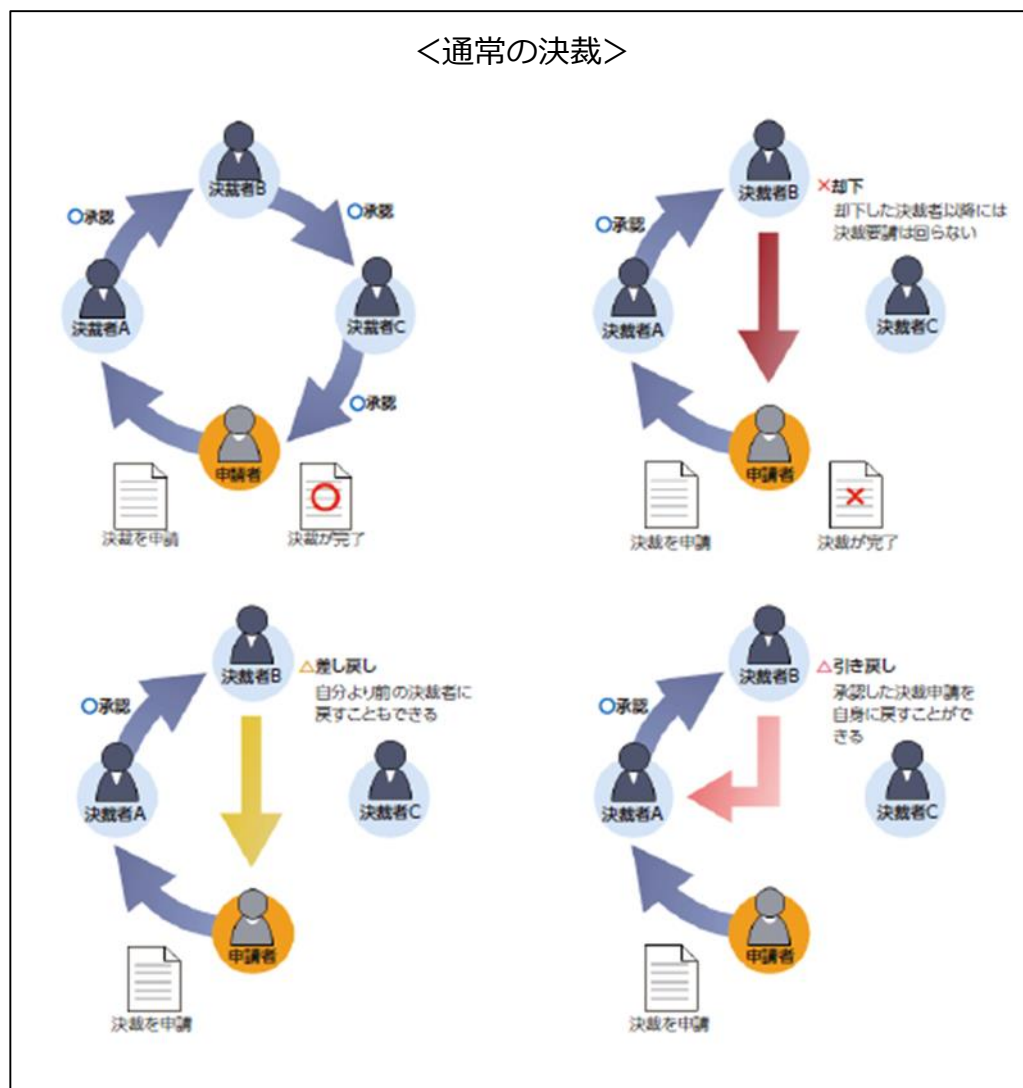
決裁では、次の役割を持ったユーザーとアクセス権が必要です。

決裁用のデータベースを公開するときは、それぞれのユーザーに応じてアクセス権を設定します。

ユーザー	役割	必要な権限
データベース作成者	決裁申請用のデータベースを検討・作成し、決裁データベース化します。 ・ 配置するフィールドの設定・レイアウトの決定 ・ アクセス権の付与	決裁データベースにできるのは、対象のデータベースの所有者・フォルダーの所有者・管理者です。レコードへのアクセス権は、一般ユーザーと同じです。
申請者	決裁の対象となるレコードを作成し、決裁を依頼します。	対象データベースのレコードへの閲覧／作成／編集権が必要です。
決裁者	レコードの内容について承認・却下・差し戻しの判断を行います。 決裁者にグループを指定した場合は、グループに所属するユーザーのいずれかがレコードの内容について承認・却下・差し戻しの判断を行います。	対象データベースのレコードへの閲覧権が必要です。 決裁者にグループを指定した場合は、グループ自体に対象データベースのレコードへの閲覧権が必要です。 ※決裁者によるレコード編集を許可している場合、編集権が必要です。この場合は、決裁者に指定したグループ自体に編集権は必要ありません。
管理者	申請者や決裁者の代わりに、決裁の取り消しなどを行うことができます。	管理者はすべての決裁データベースのレコードを参照できます。

UnitBaseの決裁機能

- 申請者が設定した決裁者が、指定された順で内容の承認判断（承認・却下・差し戻し）を行います。
決裁ルート上の前の決裁者が決裁を行わないと、次の決裁者は決裁の処理はできません。
- 指定された決裁者のすべてが「承認」と判断した場合に、決裁処理が完了し、決裁状態が「承認」となります。
- 決裁者の1人が「却下」と判断した場合は、その時点でレコードの決裁処理は完了し、決裁状態は「却下」となります。決裁ルート上の、却下と判断した決裁者以降には、決裁処理は進みません。
- 決裁者の1人が「差し戻し」と判断して、申請者または自分より先に決裁を処理した決裁者へ決裁を差し戻すこともできます。この場合、差し戻し先から再び決裁処理が進むと、差し戻しと判断した以降の決裁者にも決裁申請が回ります。
- 申請者または承認済みの決裁者が「引き戻し」と判断して、自身に決裁を引き戻すこともできます。この場合も「差し戻し」と同様に、引き戻し先から再び決裁処理が進むと、引き戻しと判断した以降の決裁者にも決裁申請が回ります。

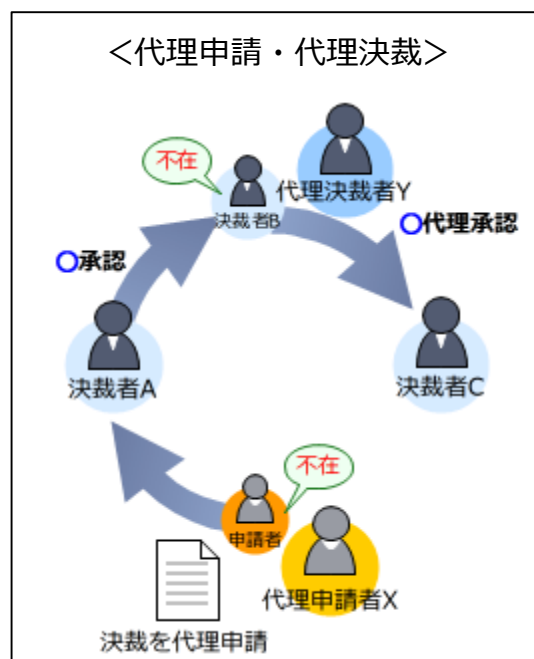
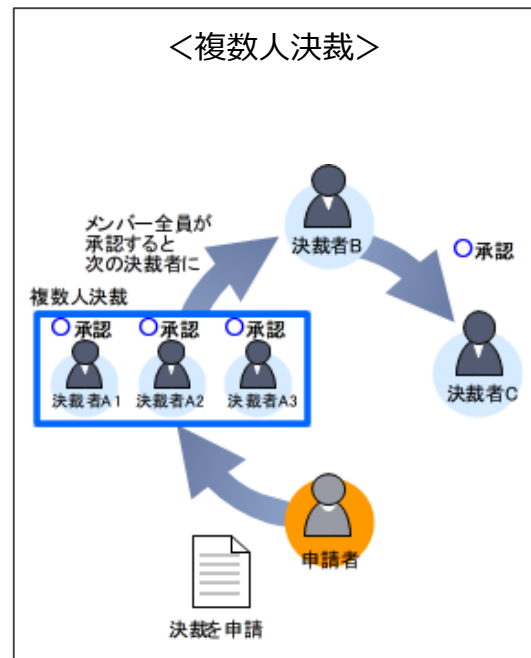
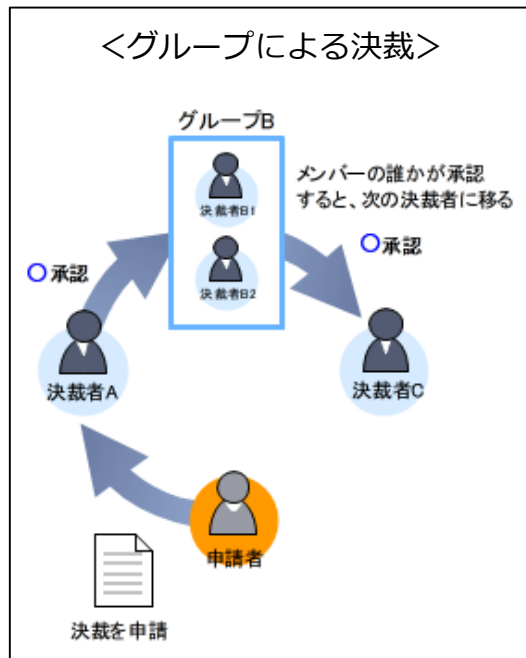


決裁機能

UnitBaseの決裁機能

□ 決裁処理の進み方（続き）

- 複数のユーザーのうち誰か1人が承認すれば次の決裁者に決裁を進めたいという場合は、決裁者としてグループを指定します。＜グループによる決裁＞
- 複数のユーザー全員が承認して初めて次の決裁者に決裁を進めたいという場合は、複数人決裁を設定します。＜複数人決裁＞
- 前もって代理人を指定しておくことで、申請や決裁の処理を代行してもらうこともできます。この場合、申請・決裁処理のそれぞれに対して、代理人を指定します。＜代理申請・代理決裁＞



決裁機能

決裁機能を設定する

□ 役職の設定

決裁ルートとして、固定のグループ／ユーザーのほか、役職を設定することができます。

役職で決裁ルートを指定することにより、決裁を申請するユーザーに応じて、決裁者を自動的に置き換えて設定できます。

例) 決裁データベースの決裁ルート設定：

課長 → 部長 → 事業部長

A事業部 営業部 田中さんが決裁を申請した場合：

佐々木課長 → 山田部長 → 加藤事業部長

B事業部 マーケティング部 鈴木さんが決裁を申請した場合：

杉山課長 → 中野部長 → 長谷川事業部長

役職の登録はUnitBaseの管理者権限を持つユーザーで行います。

個人設定

- 個人情報・パスワード
- 決裁代理
- 決裁ライン
- UnitBaseの管理
 - ユーザー
 - グループ
 - グループ管理ポリシー
 - フォルダー作成権限

個人設定・管理画面の [役職] を開く

役職

[+ 役職の追加] ボタンをクリックして表示されるダイアログで役職名を登録

役職名

- 課長
- 部長

役職の追加

役職名: 事業部長

OK キャンセル

役職数: 2

保存

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ラインの設定（ユーザー自身による設定）

決裁ルートに設定された役職をユーザーに置き換えるには、あらかじめ各役職に相当するユーザーの情報を「決裁ライン」として登録しておく必要があります。

決裁ラインの設定は、各ユーザー自身で「個人設定・管理」画面から行います。自分にとって各役職に当てはまるユーザーが誰なのかを設定していきます。また、管理者ユーザーが各ユーザーの決裁ラインを設定することもできます。以下の画面は各ユーザー自身で設定する場合です。

個人設定・管理画面の
[決裁ライン] を開く

決裁ライン

決裁ライン

+ 決裁ラインの追加

決裁ラインの追加

決裁ライン名: 自分の決裁ライン

OK キャンセル

[+ 決裁ラインの追加] ボタンをクリックして
表示されるダイアログで決裁ライン名を登録

[+ 上司の追加]
ボタンをクリック

決裁ライン

決裁ライン

+ 決裁ラインの追加

自分の決裁ライン

上司の追加

決裁ライン: 自分の決裁ライン

上司

役職: 課長

ユーザー: 増井 竜也

選択...

OK キャンセル

システムに登録されている [役職] を選択し、
その役職にあたる [ユーザー] を設定

※自分の役職を指定しておくと、決裁ルートに自分の役職が含まれるときに、その役職までのルートが自動的に省略されます。

決裁機能を設定する

□ 決裁ラインの設定（管理者による設定）

管理者ユーザーが各ユーザーの決裁ラインを設定することもできます。

個人設定

- 個人情報・パスワード
- 決裁代理
- 決裁ライン

UnitBaseの管理

- ユーザー

決裁ラインの変更

一括処理

決裁ラインの一括取込/出力

ユーザー指定変更

ユーザー: 中岡麻由子 選択...

決裁ライン

+ 決裁ラインの追加 - 編集

社内申請の決裁ライン

上司

+ 上司の追加 - 編集

役職	ユーザー
	中岡麻由子
事業部長	井上悠
部長	二宮将太

※自分の役職を指定しておく、決裁ルートの設定によっては、決裁ルートに自分の役職が含まれるときに、その役職までのルートが自動的に省略されます。

保存

個人設定・管理画面の「決裁ラインの変更」を開く

CSVファイルでのインポート・エクスポートを行う場合はこちらのメニュー

ユーザー個別に手動で設定する場合はこちらで設定するユーザーを指定

決裁代理の変更

決裁ラインの変更

決裁ライン管理ボタ

#

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定

決裁の申請先となるユーザー/グループ/役職と、決裁を回す順番の設定をセットで「決裁ルート」と呼びます。

複数の決裁ルートを用意し、申請内容に応じて適切なものを選択できるようにすることも可能です。

[+ 決裁ルートの追加] をクリック

決裁ルート一覧:

優先順	決裁ルート	設定値	自動選択条件

+ 決裁ルートの追加 - ↑ ↓

決裁ルートの追加

決裁ルート名: 1.決裁金額が【20万円未満】

決裁順:

決裁者

+ 決裁者の追加 - ↑ ↓

グループ/ユーザー
複数人決裁

決裁ルートに名前を付け、
[+ 決裁者の追加] をクリック

決裁者の選択

☒ グループ/ユーザー ☐ 役職

グループがユーザーを選択してください。

グループ

- すべてのユーザー
- すべてのグループ
- サンプルグループ
- 実践例説明用
- 管理者セミナー

ユーザー名

- UnitBase管理者
- セミナー
- 一般社員
- 中岡麻由子
- 二宮将太
- 井上悠

選択された決裁者

すべて削除

「グループ/ユーザー」を選択した場合は、
決裁ルートに含める決裁者を
固定のグループ/ユーザーや役職から
設定する

決裁者の選択

☐ グループ/ユーザー ☒ 役職

役職を選択してください。

役職名

- 事業部長
- 課長
- 部長

選択された決裁者

すべて削除

選択中:

OK キャンセル

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定（続き）

「複数人決裁」を選択した場合は、
複数人のユーザーを設定する。
ここで設定したユーザー全員が承認すると
次の決裁者に決裁が回る。

複数人決裁の選択

複数人決裁名:

※全員が承認したら次の決裁者に進みます。

選択された複数人決裁メンバー

- 二宮将太
- 佐藤洋
- 横山真緒

←

→

すべて解除

ユーザーを選択して←をクリック

グループ

- すべてのユーザー
- すべてのグループ
- ▶ サンプルグループ

ユーザー名の検索 🔍 解除

ユーザー名 ▲

- UnitBase管理者
- 中岡麻由子
- 二宮将太
- 井上悠
- 佐藤洋
- 前田雅彦
- 唐沢勇
- 増井竜也
- 小山賢治
- 岡田拓平

選択中: 横山真緒

全ユーザー選択 全ユーザー解除

OK キャンセル

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定（続き）

決裁ルート名:

決裁順:

	決裁者
1	課長
2	サンプルグループ 総務部

☒ 決裁順を申請時に編集できるようにする

申請時の決裁者の追加

☐ 自由に追加を許可する

☒ 決裁ルートの決裁順より前だけに追加を許可する（末尾固定）

☐ 追加を許可しない

☐ 決裁ルートの決裁者の削除を許可する

☐ 決裁ルートの複数人決裁の設定変更を許可する

☒ 役職が存在しない場合、決裁開始時にその役職を削除できるようにする

☒ 申請者の役職が含まれる場合、その次から決裁を開始する

- 決裁順を申請時に編集できるようにする
決裁を申請する際にこの決裁ルートが選択された場合、決裁順の編集を許可するかしないかを選択します。初期設定はオフ(許可しない)です。
オン(許可する)にした場合には、どこまで決裁者の追加を許可するか、決裁者の削除も許可するか、を設定できるようになります。
- 役職が存在しない場合、決裁開始時にその役職を削除できるようにする
決裁ルートの決裁順に役職が登録されているにもかかわらず、決裁ラインでその役職に対応した決裁者が割り当てられていない場合、決裁開始時にその役職を削除できるようにするかしないかを選択します。
- 申請者の役職が含まれる場合、その次から決裁を開始する
決裁を申請する際に、決裁ルートに申請者の役職が含まれる場合、その役職の次の決裁者から決裁できるようにするかしないかを選択します。

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定（続き）

自動選択の条件

次の & すべての 条件に当てはまる

費用合計 が 200000円 より小さい + -

承認完了時のアクション

☐ レコードコピーを行う 設定...

OK キャンセル

●自動選択の条件

この決裁ルートを自動で選択する条件を設定します。

AND条件 または OR条件で複数の条件を組み合わせて設定できます。

例) 備品購入申請の決裁データベースに複数の決裁ルートを作成しておき、合計金額に応じて自動的に適切な決裁ルートを適用することができます。

■合計20万円未満の場合

課長 → 総務部

■合計20万円以上・50万円未満の場合

課長 → 部長 → 総務部

■合計50万円以上の場合

課長 → 部長 → 事業部長 → 総務部

決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁ルートの設定（続き）

●承認完了時のアクション

決裁が承認完了したときに、別のデータベースへ自動的にレコードコピーを行うかどうかを設定します。

[レコードコピーを行う] のチェックをONにすると下の設定ダイアログが表示されます。

コピー先フィールド	フィールド	コピー元フィールド / 値
申請日	フィールド	申請日
社員名	フィールド	社員名
社員番号	フィールド	社員番号
部署名	フィールド	部署名
内線番号	フィールド	内線番号

レコードのコピー先データベースを選択します

コピー元のフィールドを、コピー先のどのフィールドにコピーするか指定します

自動レコードコピーを実行するユーザーを指定します

レコードコピーでエラーが発生した際に、レコードを特定する情報としてエラーダイアログに値を表示するフィールドを指定します

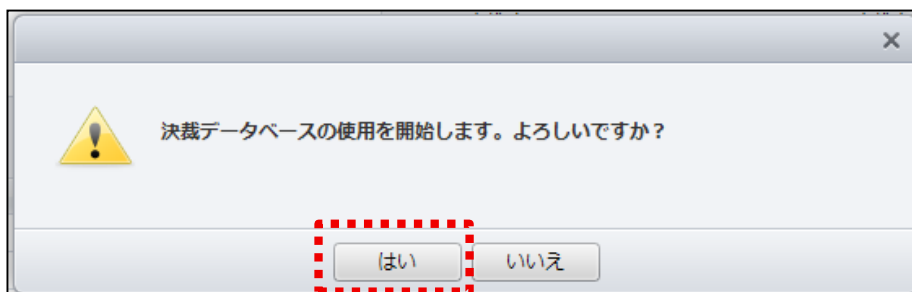
決裁機能

決裁機能を設定する

□ 決裁データベースの運用開始

すべての設定が終わったら、[決裁の設定] ダイアログの [OK] ボタンをクリックして設定を反映させます。

以下のダイアログが表示されますので、[はい] をクリックすると決裁データベースとして運用できるようになります。



決裁機能

決裁データベースを公開する

□ 決裁データベースの公開

作成したデータベースを公開し、ユーザーが決裁データベースを利用できる状態にします。手順は通常のデータベース公開と同じです。

申請者・決裁者のユーザーに必要なアクセス権は、次のとおりです。

対象者	必要なアクセス権
申請者	レコード閲覧／作成／編集権
決裁者	レコード閲覧権 ※決裁者の編集を許可する場合、編集権が必要です。

□ 決裁データベース特有のアクセス権設定

決裁データベースのアクセス権の詳細設定には、通常のデータベースにはない公開設定項目があります。

- 自分が決裁開始通知の送信先に含まれるレコードについては決裁開始後に閲覧可能にする
⇒決裁レコードの決裁開始通知の送信先に指定されているユーザーは、決裁開始後にそのレコードを閲覧できるようにします。
- 自分が決裁承認完了通知の送信先に含まれるレコードについては承認完了後に閲覧可能にする
⇒決裁レコードの決裁承認完了通知の送信先に指定されているユーザーは、決裁承認完了後にそのレコードを閲覧できるようにします。
- 自分が申請者や決裁者でない決裁中レコードの閲覧を可能にする
⇒自分が申請者や代理申請者、決裁者や代理決裁者でないレコードでも、決裁のレコードを閲覧できるようにします。
業務で1件の決裁が必要なときに、関与する複数のメンバーが同時に申請することを防止するために利用します。

決裁機能

決裁を申請する

□ 決裁を申請する

決裁データベースでの決裁申請は、通常のデータベースでレコードを作成するのと同じ要領で行うことができます。

申請に必要なフィールドを入力後、決裁ルートを選択して「決裁開始」の処理を行うと、決裁ルートに設定されている次の決裁者に決裁の処理依頼通知が送られます。最後の決裁者まで承認が通ると決裁完了となります。



品名	単価	数量	小計
デスクトップパソコン	¥ 90000	1	¥ (自動で計算)
液晶モニター	¥ 35000	1	¥ (自動で計算)

決裁申請の設定

指定された条件により決裁ルート「合計20万円未満」が選択されました。

決裁ルート: 合計20万円未満

決裁ライン: 社内申請の決裁ライン

※選択されている決裁ルートは決裁順の編集ができません。

決裁順	決裁者
1	中岡麻由子 (課長)
2	サンプルグループ 総務部

※この決裁ルートは (承認済) の段階をスキップして申請できます。

決裁者へのコメント:

承認完了通知の追加送信先: 選択...

※申請者には自動的に届きます。

決裁ルートに自動選択条件が設定されていれば適切な決裁ルートが自動設定される

手動での決裁ルート選択や決裁者の追加・削除などもこの画面で行う
※可能な操作はデータベースや決裁ルートの設定による

[決裁開始] をクリック

